

令和6年度学校経営方針

江戸川区立東葛西中学校

校長 山田 尚孝

○学校教育目標

東京都教育委員会及び江戸川区教育委員会の教育目標を鑑み、学校を取り巻く地域、本校生徒の実態を踏まえ次代を担う生徒の育成を目指し、次の目標を設定する。

- 自ら進んでよく学びよく働く生徒の育成（知育・徳育）。
- 心身ともに健康で粘り強い生徒の育成（体育）。
- 豊かな個性を育て社会に役立つ生徒の育成（徳育）。

○学校経営の基本的な考え方

生徒一人一人が心身ともに大きく成長し、人生を左右する大きな3年間を過ごす中学校は、「楽しい学校」である必要がある。それは生徒が通いたいと思うだけでなく、保護者が通わせたい、地域が応援したい、そして教職員が働きたいと思えるバランスの取れた学校である。

そんな「楽しい学校」の柱は2つ。

- ・成長を実感できる学校
- ・一人一人が大切にされる学校

その「楽しい学校」を目指すために、全教職員が持てる力を最大限に発揮し、協力し合い、以下の基本方針を定める。

○学校経営基本方針

1 生徒が自ら考え、判断し、行動を起こし、日々成長を実感できる学校

○学ぶ楽しさを感じ、基礎・基本の学力を定着させる学習指導

- ・毎授業の中で、目標の提示と振り返りをする時間を設定し、授業ごとや単元ごと等、内容や場面に応じた見通しのもてる授業を展開する。
- ・学習指導要領に基づいた適正な教科指導及び評価計画を作成し、客観的資料に基づく評価を実施する。
- ・一人一台貸与されるタブレット端末をはじめとしたICT機器を効果的に活用し、学びの深化、転換が図れる指導を実現する。
- ・タブレット端末に「使わせない指導」から「上手な使い方の指導」への転換を図り、休み時間や学校行事も含めて様々な場面で活用を推進する。
- ・生徒同士の話し合い活動だけでなく、教員や先哲の考え方との対話的な場面を設定し、思考力、判断力、表現力の育成し、自己の考えを広げ深めさせる授業を展開する。
- ・区学力PT、各教科でのコンテストや補習、放課後補習教室の実施等、個に応じた指導を展開し、生徒の学習意欲を高め、基礎的・基本的な学力を保障し、自信をもって学習に臨めるような取組をする。
- ・授業時数の確保に努める。

○心身ともにたくましい生徒の育成を図る

- ・委員会や行事等、学校生活全般において、生徒たちが主体的に企画・運営し、自分で考え、判断・行動・振り返りを経て、見通しをもって実践できる場面を意図的・計画的に設定し、生徒の自主性を育成する。その自主性を尊重し、現在の変化の激しい社会の中でも将来の夢や希望がもてるようにする。
- ・日常的な運動を取り入れた活動の推進や保健活動の充実を図る。
- ・「特別の教科 道徳」の充実だけでなく、教育活動全体を通じた道徳教育を実施する。
- ・生徒自身の中、長期的な展望を描くことのできるキャリア教育を実施する。
- ・本物に触れる活動、体験的な学習による教育活動を実施する。(TGG、校外学習)

2 人権尊重の精神を生かし、自分も人も大切にす、いじめのない学校

○望ましい人間関係の構築を図る

- ・学校生活及び社会生活におけるルールを身に付けるとともに、「なぜ」を考えさせる指導をし、相手の立場に立って物事が考えられる生徒を育てる。
- ・生活目標「みそあじ」を徹底させる。
 - ④中学生らしい身だしなみの生徒 …TPOをわきまえた言動
 - ⑤そうじを一生懸命する生徒 …きれいな環境は心の安定につながる
 - 重点⑥あいさつがこだまする学校 …登下校でも廊下でも授業の始めと終わりにも
 - ⑦時間を大切にする生徒 …授業規律にもつながりる
- ・Q-Uを年2回実施し、個々への取組や学級集団の特長を捉え、望ましい学校生活となるよう、効果的なアセスメントを実践する。1回目のQ-Uから学年・学級の状況を的確に分析し、課題点の解消に向けた具体的な取組を設定し、検証する。
- ・不登校生徒0、いじめ0を目指し、担任をはじめとして全教職員がスクールカウンセラーや、関係諸機関、保護者と連携・協力し、個に応じた丁寧な指導を行う。
- ・スクールカウンセラーによる1年生全員面談や家庭訪問等を通し、事前の生活アンケートをもとに、生徒の状況を把握し、全教職員で情報を共有し指導を行う。
- ・人権尊重の精神を養い、自分を大切にするのはもちろん、多様な考え方をもち人も大切にでき、いじめや差別・偏見のないお互いに個性を認めあえる集団の育成を目指す。
- ・授業規律や校内生活のきまりの順守など規範意識の育成し、物事の善悪の判断がしっかりとできる生徒を育てる。
- ・特別な配慮を要する生徒への対応は日々の授業観察や行動観察を丁寧に行い、個別指導計画を作成し、家庭と連携しながら支援を充実させるとともに、インクルーシブ教育を推進する。
- ・不登校・特別支援委員会の機能を強化し、特別支援コーディネーター、不登校巡回指導教員を中心に、校内別室事業を充実させる。校内別室支援員と連携し、全教職員が指導・運営にあたる。

3 教職員一人一人が力を最大限に発揮し、使命感をもって組織的に生徒の育成に努める学校

○情報を共有し、目標を明らかにし、高い同僚性と協働性をもって組織的に生徒の育成を図る

- ・将来的に日々変化する社会に対応する生徒に対し、以前に戻す計画や実践だけでなく、創意工夫のある教育活動を展開するため、自己研鑽し、知恵を出し合い、行動をする教職員集団を目指す。
- ・校内研修を通して、生徒にとって興味関心をひく授業改善に向け、教員の授業力向上を図る。
- ・客観的資料に基づいた適正な評価をするために、校内研修を実施し教科の特性を生かしながら生徒や保護者にとって信頼に値する評価をめざす。
- ・お互いの授業を積極的に参観し、学習指導要領に対応した授業スタイルを確立する。
- ・教職員間のコミュニケーションを意図的、計画的に実施し、情報の共有と服務事故防止に努める。
- ・生徒指導において、担任一人で対応するのではなく、生活指導部、学年、学校全体で情報・課題を共有し、組織的対応を心掛ける。
- ・教職員の人権意識を高め、同僚性を活用し、生徒指導の場面や部活動においても、人格を傷つけない言動や、体罰のない職場環境にする。
- ・教員だけでなく、不登校巡回指導教員、特別支援教室専門員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の専門的な職員を活用しながら、組織的な教育相談体制を確立する。報告、連絡、相談、確認を徹底し、関係諸機関を含めて、生徒にとって必要な効果的な手立てを講じられる体制にする。

○ワークライフマネジメントの推進

- ・江戸川区教育委員会の定めた「学校における働き方改革プラン」や「部活動の方針」に従い、メリハリのある業務遂行、取組を行う。

○公務員としてサービスの厳正に努め、サービス事故のない信頼される学校

- ・信頼される教職員であるために、強い使命感と高い倫理観をもち、サービス上の問題として指摘されている以下の項目に特に注意し、サービス事故のない学校であり続ける。
 - セクシャル・ハラスメント
 - わいせつ行為
 - インターネット・ソフトウェアの適正利用
 - 会計事故（私費・公費）、利害関係者との接触
 - 勤務時間、長期休業期間中の勤務、欠勤
 - 体罰、暴言、不適切な指導
 - 個人情報および公文書の漏洩、紛失
 - 兼職・兼業（無届）
 - 海外旅行、私事旅行（無届の旅行）
 - 自動車通勤（届出と異なる通勤方法）

4 地域からも応援され、卒業生や保護者からも誇りに思われる学校

○学校教育活動の情報発信

- ・学校教育活動の実際を、保護者、地域の方々によりよく理解していただけるよう、定期的な学校公開を実施する。学校見学については、随時受け入れる柔軟な対応をする。
- ・学校だより、学年だより等は、ホームページだけでなく、タブレットや連絡メールを活用し、配信で保護者に届くように発信する。（配信を原則とする）
- ・保護者による学校評価や行事等におけるアンケートを通して、情報の双方向性を確立する。
- ・連絡メール等を有効活用し、タイムリーな情報発信を行う。

○家庭力、地域力との連携による生徒の育成

- ・学校と家庭、地域の役割を確認し、それぞれのもつ力を十分に発揮し、連携を図り生徒の健全育成に努める。
- ・地域の貴重な人材である生徒に多くの大人（PTA、学校応援団、おやじの会、学校評議員、各自治・町会、民生児童委員、外部指導員、ゲストティーチャーなど）が関わり、生徒の健全育成に努める。
- ・小中連携を推進し、生徒の活躍の場を、意図的、計画的に設定し、地域の中で育つ生徒を育成する。
- ・ボランティアとして、地域行事に生徒の参加を促し、地域と一体となって生徒の育成を図る。

○安心・安全な学校づくり

- ・常に校内美化に努め、自ら進んで教育環境を整えることができる生徒を育てる。
- ・学校施設の活用を図り、清掃活動や花壇等の整備を通し、きれいな環境を作る。
- ・定期的な施設設備点検を通し、割れ窓理論とならないよう、教育環境整備に努める。
- ・災害発生時など非常時における行動訓練、保護者・地域との連携。
- ・不審者対応など緊急時における教職員分担や職務の明確化。